



みなみっ子

70 号

令和 8 年 9 月 30 日(水)

南城市立大里南小学校
文責 校長 與儀 毅

学校教育目標

自立

協働

創造

小学校での読書月間中に大人にこそ届けたい、ページをめくる豊かな時間

毎年秋に訪れる「読書月間」。読書の大切さや楽しさは、子どもだけでなく、日々慌ただしく過ごす私たち大人にこそ改めて見つめ直したいテーマです。学校便り 14 号でも取り上げた読書について再度取り上げます。

近年、「活字離れ」が叫ばれて久しいですが、実際に私たちが目にする文字の量自体が減ったわけではありません。むしろスマートフォンや PC の普及により、SNS やニュースサイトなどで「デジタルの活字」に触れる機会は飛躍的に増えています。しかし、画面上で情報を素早く処理する「画面の活字」と、じっくりと物語や思想に浸る「本の活字」とでは、得られる体験が大きく異なります。

デジタル全盛の今だからこそ、あわせて見直したいのが「紙媒体（紙の本）だからこそ味わえる価値」です。

◎五感で楽しむ読書の質感：手触り、ページの重み、インクや紙の匂い。ページを捲る物理的な行為そのものが、読書体験を深く記憶に刻み込みます。

◎情報から「思考」への深まり：画面の通知やリンクの誘惑がない紙の本は、目の前の文章だけに没頭できる環境を作り出します。これにより、読んだ内容を自分の生活や生き方と引き寄せて考える「深い思考の時間」が生まれます。

また、読書月間は「多様な本との出会い」を楽しむ絶好の機会です。いつもは手に取らないジャンルの本や、たまたま本屋で目についた一冊を開いてみることで、自分の知らなかった世界や新しい価値観へと視野が広がっていきます。

さらに、時代を超えて「読み継がれている本（名著・古典）」には特別な魅力があります。何十年、何百年もの間、多くの人々の心に響き続けてきた言葉には、現代の課題や個人の悩みを解決する普遍的なヒントや、揺るぎない知恵が詰まっています。

読書は、単なる知識のインプットにとどまらず、心を整え、豊かな想像力を養う「人生の滋養」です。この読書月間をきっかけに、デジタル画面を少し置き、お気に入りの一冊とともにページを捲る贅沢な時間を過ごしてみたいはいかがでしょうか。ご家庭でも、テレビやスマートフォンの画面を少し休み、親子でそれぞれ好きな本を開いてみませんか？大人が本を楽しむ姿は、子どもたちにとっても最高の読書への誘いとなります。

この秋、ご家族で心豊かな「読書のひととき」を過ごしていただければ幸いです。

デジタル時代だからこそ。大人が「紙の本」で取り戻す、心豊かなひととき

現代人はデジタル画面で大量の文字に触れていますが、それは「情報の処理」に過ぎません。本記事は、読書月間を機に、あえてデジタルを離れて「紙の本」を開くことで、五感を刺激し、深い思考に没頭する贅沢な時間を取り戻すことを提案しています。

